

# 『宮津城の城壁復元に取り組む』

——災害復旧事業への市民参画を通じて——

京都府 宮津市 建設室

## 1 はじめに

本稿は、本市が平成16年台風23号により、かつてない被害を受けた復旧工事と一体的に行なった道路改良工事に関するもので、災害復旧を中心とした内容であります。

### 【地勢】

宮津市は、京都府の北部に位置し、日本三景天橋立をはじめとし日本海に面した美しい海岸線や宮津湾のたたずまい、世屋高原や大江山の豊かな自然に恵まれています。

また、交通網についても舞鶴若狭自動車道路や京都縦貫自動車の整備も進むとともに、JR山陰本線、JR福知山線から北近畿タンゴ鉄道へ連絡する交通網により、京阪神からの観光客も多く、近年は、豊かな自然と優れた歴史文化に恵まれ、丹後観光の拠点として、全国から年間250万人が訪れ、交流する北近畿有数の観光都市です。

### 【沿革】

宮津の地は、古代には国府、国分寺、中世には国衙（こくが）、守護所が置かれ丹後地域の政治、文化の中心として繁栄し、近世には宮津藩の城下町、日本海海運の港町として発展しました。明治維新後は、宮津県、豊岡県などを経て京都府へ編入され、明治22年に町制施行とともに宮津町ほか10村が誕生しました。そして、昭和29年には町村合併により宮津市が誕生、昭和31年に1村を編入し、現在の面積169.32km<sup>2</sup>、人口の約20,900人に至っております。



## 2 災害復旧事業への市民参画

### 【経過】

大手川沿川は、過去に台風などの豪雨や高潮の影響を受けて、幾たびも被害を被ってきたことから、大手川の治水安全度の向上は、地域住民の悲願でありました。

大手川は2級河川で京都府管理となっていることから、平成10年度に大手川促進協議会が設置される中、広域基幹河川改修事業に採択され、平成13年6月大手川整備計画（30年計画）が策定され、事業が進められていました。



台風23号の被害状況

そうした中、平成16年10月20日発生の台風23号により、2,400戸を超える家屋の浸水被害を受けたことから、「河川激甚災害対策特緊急事業」の採択を受けるとともに、平成18年8月に大手川河川整備計画の変更がなされ、安心・安全な河川への抜本的な改修が概ね5カ年で進められることとなりました。

### 大手川河川整備の目標

## 宮津の歴史と自然を生かした 安全で、心やすらぐ水辺づくり

- ① 大手川流域の自然を生かす水辺づくり
- ② 宮津の歴史的な遺産を生かし、高める水辺づくり
- ③ つどい、心やすらぐ水辺づくり

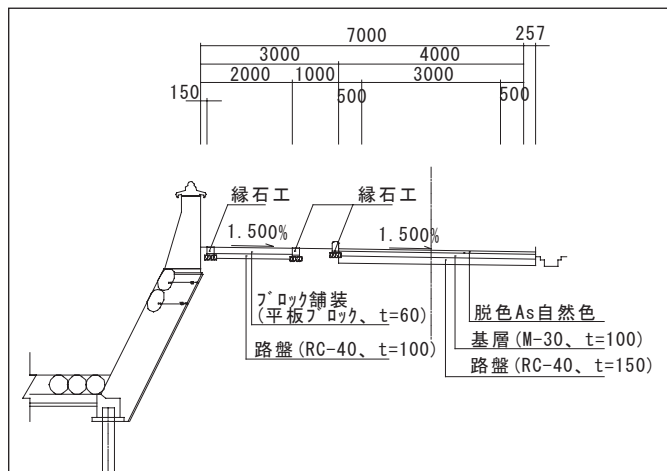
### 【ワークショップによる市民参画】

改修事業については、市民の意見を反映した川づくりを目標としており、意見交換の場として、ワークショップを開催することとしました。メンバーについては公募で募り、大手川の現状や課題を把握し、アイデアを出し、プランについて考え、最終案のとりまとめを行いました。

ワークショップのプランをまとめるにあたり、大手川河口付近は、かつて宮津城の外堀として利用され、それが名前の由来となったこと、また、現在も河川護岸の一部に自然石の石積があり、面影を残していることから、宮津城の城壁復元をモチーフにした水辺づくりの整備方針が採用され、隣接する右岸道路計画もこの方針に沿ったものとなりました。



かつての宮津城大手門



標準断面

### 【市民の熱意と道路計画】

具体の計画は、かつての宮津城を偲ぶ護岸として、自然石の石積みの上に、特殊堤護岸が整備されるため、その特殊堤護岸を活用して瓦屋根付で白壁風塗装を行ないました。

道路の整備については、散策ルートとしても利用することから、通行車輛の速度を抑制するため、平面形状をクランク状にするなど、歩行者の安全性や快適性を考慮した、コミュニティ道路の要素を取り入れることとしました。

しかし、ここで問題となったのが、宮津城の城壁復元として不可欠な白壁風城壁及び瓦屋根に必要な施工費の捻出でした。

そうした中、城壁復元へのあつい思いにより商工会議所が中心となって、『宮津城の城壁復元に取組む会』が市民主体で設立され、整備費用も寄付を募る等、官民一体の整備方針が定められました。

工事の発注方法についても、河川構造物（特殊堤）は京都府、道路整備については宮津市、白壁及び瓦屋根は、『宮津城の城壁復元に取組む会』が事業主体になるが、全てが関連する工事であり一体的な施工が必要と考える中、特殊堤工事を宮津市が受託し道路整備と合併施工するとともに、その請負業者へ『宮津城の城壁復元に取組む会』が随意契約し、円滑な施工が図られるよう官民一体で事業を進めました。

また、城壁復元工事の起工式も、取組む会が中心となり開催され、併せて宮津城の太鼓門についても、小学校の裏門から正門に移築されるなど、宮津城の面影復元に寄与されており、この改修工事を通じて、市民にも公共事業に関心を持っていただいたことでしょう。



整備された道路



復元された宮津城城壁



小学校正門に移築された太鼓門



知事を迎えての起工式

### 3 おわりに

平成 19 年度より、大手川に愛着をもっていただき、美しい川作りの一環として、大手川改修促進協議会を中心に、ボランティアを募り、大手川周辺の清掃活動を実施しておりますが、完成後は、協議会が解散するため、現在は、新たな組織作りが必要と考え、協議会で検討しているところです。

また、城壁の維持管理についても、当面は『宮津城の城壁復元に取組む会』が管理することとなりますが、将来的には、維持管理のあり方が課題となっております。

市民の憩いの場として活用していただけるよう、市民協働で守っていく仕組みづくりが課題であると考えております。